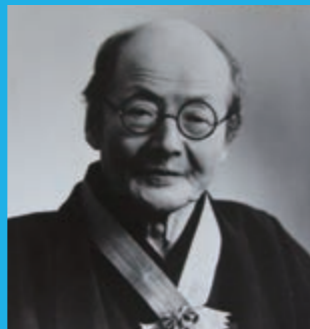


日本語の文法を解明したい 山田 孝雄

国文学の学者

富山県人初の文化勲章

富山市名誉市民

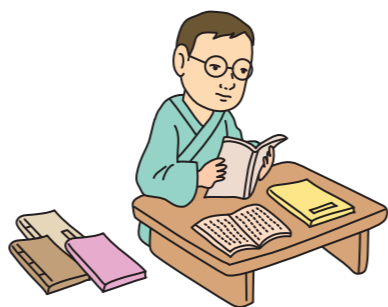


1875 (明治8) 年8月20日—1958 (昭和33) 年11月20日

家計を助けるために先生となる

新川郡富山町総曲輪 (現富山市) で元富山藩士の二男に生まれました。明治維新後に藩がなくなり、藩士であった父が仕事を失ったことなどから、苦しくなった家計を助

けようと、入学していた富山県尋常中学校 (現県立富山高校) を中退しました。その後、学校の先生になるため、一人で勉強に励みました。



日本語の文法を解明したい

小学校の先生になった孝雄は、草島尋常 (現富山市立草島小学校)、上市尋常高等 (現上市町立上市中央小学校)、下村忠告尋常 (現射水市立下村小学校) の各小学校に勤めました。富山市の自宅からどんなに遠い学校でも朝早く起きて歩いて行きました。

学校から帰ってからも猛勉強を続け、中学校、師範学校の先生になる試験に合格し、1896 (明治29) 年、兵庫県の私立鳳鳴義塾 (現篠山鳳鳴高校) の先生になりました。

ある日、生徒から「教科書に『は』は主語を表す助詞とありますが、『は』は『日本では富士山が高い』というときの『は』のように、主語でない場合にも使われるのではありませんか」と質問され、答えられなかったことがありました。孝雄は自分の不勉強を恥じ、国語の文法教育はもっとしっかりしないといけないと考えるようになりました。

「日本文法論」が完成

その後、孝雄は奈良県尋常中学校 (現郡山高校) の五条分校 (五條市) で教師と舎監 (寄宿舎を管理、監督する先生) を兼ねた仕事に就き、昼も夜も働き続けました。孝雄の「もっと家に送金を」という思いからでした。

孝雄が学校にいなかったときに、分校が火事で焼ける事件が起きました。孝雄は責任を感じて転

勤を申し出ました。そして高知県立第一中学校の安芸分校 (現安芸高校) に移り、仕事に打ち込み、日本語の文法を熱心に研究しました。

孝雄が高知にいたときに研究をまとめた論文が、後に孝雄の代表作となる「日本文法論」です。1902 (明治35) 年に完成したこの研究は、それまでの日本語の文法を基に手を加え、さらに外国語の文法理論を



著書『日本文法論・上』と原稿 (富山市立図書館山田孝雄文庫蔵)

取り入れたもので、「山田文法」の名で広く知られています。

実を結んだ長年の努力

孝雄はこの論文を『日本文法論・上』と題して出版し、その後、博士号をもらう論文として東京帝国大学 (現東京大学) 文学部に送りました。しかし、学歴のない孝雄の論文は文学部の教授らに読まれることなく月日が過ぎていきます。1908 (明治41) 年には1500ページにおよぶ大作『日本文法論・全』も出版しました。

その後、孝雄は日本大学講師や東北帝国大学 (現東北大学) の教授を務め、国文法以外に万葉集や俳句などの研究も行い、国文学の世界で孝雄はどんどん有名になっていきました。

そんなとき、東京帝国大学から再度、論文を出すように求められました。そして最初に論文を出してから25年後の1929 (昭和4) 年、54歳になっていた孝雄に文学博士の学位が与えられました。

1957 (昭和32) 年には、国語学界の第一人者として、富山県人では初の文化勲章を受けました。生涯におよそ300点の論文と70点余りの専門書を著しています。



文学博士学位授与の祝賀会 (個人所有)



家族との記念撮影 (後列左から4人が孝雄) (個人所有)



山田孝雄文庫 (富山市立図書館山田孝雄文庫蔵)

夢や志をかなえたポイント

- たくさん本を読む
- 分からないことはとことん調べる
- 結果がすぐに現れなくても、努力を続ける

1875 (明治8)	0歳
富山町総曲輪に生まれる	
1887 (明治20)	12歳
富山県尋常中学校に入学	
1892 (明治25)	17歳
草島尋常小学校の先生になる	
1896 (明治29)	21歳
兵庫県の私立鳳鳴義塾の先生になる	
1902 (明治35)	27歳
『日本文法論・上』を刊行	
1908 (明治41)	33歳
『日本文法論・全』を刊行	
1920 (大正9)	45歳
日本大学の講師になる	
1927 (昭和2)	52歳
東北大学教授になる	
1929 (昭和4)	54歳
文学博士となる	
1944 (昭和19)	69歳
貴族院議員になる	
1953 (昭和28)	78歳
文化功労者に選ばれる	
1957 (昭和32)	82歳
文化勲章を受章	
1958 (昭和33)	83歳
仙台で亡くなる	

コラム 一生に3万冊を読んだ 大学者の蔵書の一部 「山田孝雄文庫」

孝雄は文化勲章を受けると同時に富山市名誉市民に選ばれました。富山市は1996 (平成8) 年に遺族から寄贈された孝雄の蔵書を整理し、富山市立図書館の専用の部屋で「山田孝雄文庫」を開いています。孝雄は生涯に3万冊の本を読んだといわれますが、文庫にはおよそ1万8000点が収められています。



山田孝雄が著した本の一部 (富山市立図書館山田孝雄文庫蔵)

豆知識 小学校の先生をしていたころ、孝雄は毎日同じ時間に家を出て歩いて行きました。近所の人が時計代わりをするほど、時間は正確でした。